

令和 7 年 10 月 28 日

腸管出血性大腸菌(O157)感染症の集団発生がありました

令和 7 年 10 月 24 日（金）、長野市内の医療機関から腸管出血性大腸菌感染症の発生届がありました。

患者は市内の県立高校 2 年生で、これまでの調査により 10 月 28 日（火）現在で当該高校 2 年生及び教職員の計 41 人が腹痛、下痢、血便などの胃腸炎症状を呈しております。そのうち 5 人の腸管出血性大腸菌（O157）感染が確認されており、有症状者を含む 5 人が入院（退院者含む）していますが、重症者はいません。

有症状者は全て 10 月 14 日（火）から 17 日（金）まで沖縄県へ修学旅行に行っていることが分かりました。

長野市保健所では、引き続き生徒、職員、感染者家族等への健康調査、当該高校を通じて消毒方法・手洗い等について注意喚起、沖縄県と連携した原因調査を行います。

発生状況

(10 月 28 日現在)

修学旅行参加者	有症状者数	入院者数（内数）
生 徒 1 8 3 人	3 9 人	5 人
職員等 1 1 人	2 人	0 人
合 計 1 9 4 人	4 1 人	5 人

報道機関各位におかれましては、感染症法の趣旨に基づき、患者、患者家族及び当該施設が特定されることがないよう、格段の御配慮をお願いします。

本件に関するお問い合わせは、本日午後 6 時 30 分までに裏面担当へお願いします。

○腸管出血性大腸菌について

腸管出血性大腸菌感染症は、初夏から初秋は多く発生する時期であり注意が必要です。また、気温の低い時期でも発生が見られます。家畜や感染者の糞便を通じて汚染された食品・食器・手指等を介して、口から感染します。症状には個人差がありますが、下痢、腹痛、血便、発熱などの症状がみられ、重症になると溶血性尿毒症症候群（HUS）※を引き起こすことがあり、特に抵抗力の低い乳児や高齢者に注意が必要な感染症です。外出や排便の後の手洗い、食肉等は十分に火を通すことなどによる感染予防が大切です。

※ 溶血性尿毒症症候群（HUS）

O157などの腸管出血性大腸菌に感染することによって貧血、血小板減少、急激な腎機能の悪化などが引き起こされる病気

○感染防止のための注意点

- 1 帰宅後、食事前、トイレやおむつ交換の後は、手・指を石けんと流水でよく洗う。
- 2 動物とふれあった後には、必ず、石けんを用いて十分に手洗いを行う。
- 3 腸管出血性大腸菌も、食中毒原因菌のひとつです。以下の項目についてもご注意ください。
 - ・生で食べる野菜などと、加熱する肉などを一緒に調理しない。まな板や包丁などを別々にする。
 - ・加熱調理を十分に行う（中心部が 75℃で1分以上）。
 - ・調理器具を清潔に保つ。必要に応じて熱湯や漂白剤で消毒する。
 - ・バーベキューや焼肉等をするときには、肉を焼く箸と食べる箸を別々にする。